

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277100588		
法人名	社会福祉法人慶成会		
事業所名	グループホーム花みずき (3ユニット合同)		
所在地	静岡県浜松市西区大山町2882番地		
自己評価作成日	平成28年1月28日	評価結果市町村受理日	平成28年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyouCd=2277100588-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれた広い敷地にゆったりと配置された3棟の平屋造りの建物が、「グループホーム花みずき」です。入居された方が自由にのびのびと暮らしていただけるように、健康と安全に配慮した援助をご提供させていただいています。また、入居されている方と職員が共に生活を楽しみ、暖かい雰囲気を大切にしています。入居されている方にとっても、そのご家族にとっても、のんびりと寛げる”別荘”という感じで利用していただけることを目指しています。更に、花みずきの南側に作った畑を利用して農作業を通じた地域交流を行うなど、立地環境の利点を活かして、地域社会との繋がりを大切にしたい”ホッとできる”施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

これまで外部評価は3ユニット各々でしたが、年々独自性が高くなり別事業所の様相を呈してきたため本年から1本化しています。事業所では取組みの統合により特にユニット間の応援強化に期待を寄せています。またアメーバ経営では職員の責任と自律が養われるなか「実践者研修に各ユニット1名以上～」をめざし、リーダー研修には2名が修了、法人主催では大府センターから講師を招き認知症研修を2年間で12講、キャラバンメイトに2名と、包括ケアへの資質向上に余念がありません。認知症ケア専門士となった同僚に触発され、来期には2名が挑戦するとの意志を固めており、人材の種は人財へと実を結びつつあります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「やさしく、ゆったり、よりそって」という法人の理念の下に、管理者と職員が共通認識に立っての実践に取り組んでいる。また、アメーバ経営により全員参加の経営組織作りを進めている。	職員一人ひとりが責任をもってプラン作成と家族への説明をおこなうことで理念の実践を確かなものになっています。また玄関脇にもベンチが昨年よりも増え「やさしく、ゆったり、よりそって」を体現しているかのようでした。	大半の職員は理念を体現していましたが、一部「よそのお宅で仕事をさせてもらっている」ように見えない人もいました。客観的に注視し合える仕組みがあることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園、中学校、老人クラブとの定期的な交流の機会はあるが、日常的な交流はまだ出来ていない。法人内の他の事業所とは日常的に連携を取り、利用者の交流に繋げている。	近隣に住宅がないこともあって発足した畑づくりは収穫とともに園児をはじめ人の関わりも拡がり功奏しています。神社にでかけたりもあります。地域へ出向くことは積極的とはいきません。	地域の人達が集うサロンの運営を目指して数十ヶ先に法人が箱ものを建設中ですので、認知症サポーター養成講座事業の推進を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学校が行う職場体験学習で認知症の人の理解について学んで頂いた。また、地域包括支援センターや法人と連携して地域の人への認知症研修会に職員が講師として参加した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には区役所の職員や近隣のグループホーム管理者にも参加して頂き、年間計画を立てて定期的に開催している。また、利用者の日常の様子を毎回スライド上映で伝えたり、その時々課題を話し合っている。	「地域に理解してもらいたい〜」「溶け込みたい」との想いをもって取組んではいるものの、これまでは行政と事業所、家族中心でした。反省もあって来期からは老人会からの定期出席が見込め、弾みがついています。	畑にかかわる園児の絵画を表紙にしたり、またレジュメに理念を掲げるなど「皆でつくる、ことを示すとともに欠席者には議事録を届けることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員として区役所の職員と介護相談員に参加していただき連携を取っている。また、浜松市介護サービス事業者連絡協議会の理事として、浜松市との連携を取っている。	以前の運営推進会議では困りごとへの訴えに終始する面もありましたが、現在では法改正に伴い市内の事業所の現状を伝えての合議もおこなわれ、場が発展しています。浜松市ささえあいポイント事業の受入申請もおこなっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除に関するマニュアルを置き、研修への参加の機会を作り、職員への教育を行っている。また、ケア会議等を通して身体拘束が行われないように注意してケアに取り組んでいる。	虐待のニュースが続いたことから、速やかに個人面談をおこない意識継続を図っています。玄関は施錠はなく、メロディチャイムで人の出入りがわかるようにしており、ケア会議では自然に職員間で省みる話し合いができています。また休憩は30分しっかりとるよう徹底しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新規採用職員へのオリエンテーションの中で「高齢者虐待防止法」についての教育を毎回行っている。また、法人内外の研修に参加することを通して継続的に学ぶ機会を持ち、日々のケアの中で防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での職員研修に参加することにより、権利擁護に関して学ぶ機会を作っている。また、既に成年後見制度を利用している利用者が複数いるため、日々の支援を通して学びを得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約に関する説明を十分に行い、途中においても質問には丁寧に答えている。また、制度等の内容が変わった時には、年2回の家族会等を通して十分に説明し納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回行う家族会では、毎回ご意見やご要望を聞き運営に反映させている。また、運営推進会議へ委員として家族代表に参加していただいたり、家族面談等の場を使って積極的にご意見を聞くように努めている。	春は事業計画報告、秋は「来期はどうしようか」問いかけ、夏は七夕の短冊に願い事を書いてもらい、冬は初詣と家族会は春夏秋冬行事として定着しているほか、面談も年2回あり、クレームも言ってもらえ風通しが良い関係にあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議や職員個別面談、職員意向調査等を通して積極的に意見を聞く機会を作っている。また、法人内ではアミーバ経営により職員が全員参加で意見を出し法人全体の経営にも反映されている。	アミーバ経営により収支管理を考えたり、プラン作成担当では家族に直に説明したりと、職員が経営的な視点をもったり、ケアマネージャーや管理者の役割の一旦を担うことで参画度が高まるなか、自律が促進されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課の評価と個別面談を行い、更に年1回職員の意向調査を行うことにより、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体研修として毎月1回職員研修を行うと共に、事業所毎では積極的に法人外の研修参加の機会を作っている。また、法人として職員のキャリアアップ研修を毎年実施したり、介護福祉士取得のための支援にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が、浜松市介護サービス事業者連絡協議会と県グループホーム連絡協議会の理事を務めていることもあり、同業者と交流する機会を積極的に企画し、職員に参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ず事前面談を行い、本人に不安な事や困っている事などを聴くようにしている。入所後は事前情報を基に、本人の様子や言動に気を配りながら声をかけ、関係づくりに努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の事前面談にご家族にも可能な限り立ち会って頂き、要望や困っていた事などを伺うようにしている。立ち会えない場合であっても、入所手続き時や面会時に話しを伺うようにし、関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内事業所が連携を取りながら総合的に地域のニーズに応える体制をとっているため、相談の段階でその時に必要なサービスの利用が出来るように対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と一緒に洗濯・掃除・料理等を行ったり、一緒に歌をうたったりと、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。家事等の後には必ずお礼を伝え、必要とされている存在だと感じて頂けるよう心掛けている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には最近の生活の様子や健康の状況報告を行い、必要に応じて電話連絡も行っている。ご家族への連絡を密に行う事でご家族が相談しやすい環境づくりを心掛けている。また、年4回個々の便りを作成し発送している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・外泊等を自由にして頂き、ご家族や馴染みの知人が心おきなく来館できるよう努めている。家族会ではキーパーソン以外のご家族・知人に参加していただいたりと、関係が途切れないよう努めている。		「108歳の祝いを昔好きだったもので～」とノンアルコールビールで乾杯したり、面会時間を設けずに家族を歓迎しています。手持無沙汰な様子から雑巾縫いを依頼したところ刺し子、刺繍へと手業が進展した例もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや家事等を通し、利用者が集まったり協力し合える環境づくりに努めている。必要に応じて職員が間に入り、関わりの支援をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の施設へ異動した際には面会へ出向き、経過を見守るよう努めている。また、ご家族様から相談があった場合もその都度対応し、必要であれば法人外の施設へ連絡をとる等、フォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの中での会話や行動から、ご入居者が希望している生活や要望を把握するよう努めている。困難な場合であっても言動から思いを汲み取り、ご家族と相談しながら随時検討・共有している。	センター方式8枚分が使いこなされ、特に暮らし方、生活史、支援マップの各シートを重用して掘り下げた情報把握がみられます。またリビングでは利用者の今日の心身のリズムに配慮した関わりがあることを実際に目にしました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前面談、センター方式の活用、ご家族への聞き取りを行い、生活歴や馴染みの暮らし・生活環境の把握に努めている。また、入所前に利用していたディサービスへ出向いたり、担当ケアマネから情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックで身体の状態を記録している。日常のケア記録、職員間の申し送りや情報交換により、常に現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、職員全員で意見を出し合い、多面的かつ本人の意に沿った内容となるよう努めている。また、ご家族・医師・看護師等に意見を聞き、必要に応じて話し合いの場を設け、介護計画を作成している。	家族との面談と合意に重きをおいていることから、家族都合で延期され合意の署名が開始日を越えてしまうケースもいくつかでていたため、本年度からは合意を得た日付に十分留意するようになっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を記入し、気付いた事や重要な内容等は職員間で情報共有しやすいよう個別でファイリングしている。また、ケア会議で必要に応じた対応を確認し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者それぞれの意思を尊重し、食事の準備や片付けを一緒に行っている。また、食べたい物を聞いて食レクや外食の機会を設け、楽しみとなるよう努めている。必要に応じてご家族へ相談したり、協力を得るなどしながら柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会のボランティア、保育園児との交流があり楽しみとなっている。法人内のイベントや地域の施設団体と協力しての夏祭りにも参加している。4月にオープンする法人内保育園とも交流する予定である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族が希望するかかりつけ医がある場合は、入所後も継続してその医療を受けられるよう支援している。また、施設と協力関係にある医師が定期往診に月2回来館し、との都度指示をもらっている。	24時間オンコール可能で月2回往診のある協力医に全員が変更しています。非常勤ですが看護師もおり、職員から問い合わせがあれば公休日でも医師と連携をとってくれ、心強い存在となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師にご入居者の状態報告や相談をし、必要に応じて受診や医師への連絡、指示を仰ぐ等、適切な対応がとれるよう努めている。看護師・医師へは24時間相談体制がとられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には介護サマリーを提供し、生活状況などを詳しく伝えている。可能な限りお見舞いに出向き、医療関係者と情報交換を行って早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況の変化に応じて早い段階から医師・看護師との連携をとり、ご家族の意向の確認や協力要請の話し合いを行っている。その結果により方針を定めて職員間で意思の共有を図っている。	未経験による「不安…」の声が聞かれるものの、母体の特別養護老人ホームから転属の職員の存在が支えとなり、本年度は1名看取りに取組みました。見送った後のカンファレンスでは「(次は)できない」と言っていた新人も今では気持ちに整理が付き意欲を回復させています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修で心肺蘇生等の講習を行ったり、看護師から指導を受けている。また、連絡簿や医療情報ファイルを作成し、速やかに対応できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の火災を想定した避難訓練を各館毎で実施すると共に、風水害対応マニュアルを作成し職員教育を行っている。また、法人で行う災害対策の研修に参加しているが、地域との協力体制までは築けていない。	法定訓練+αの回数を実施し、年1回は消防署の立ち合いを求めて具体的な助言を得ています。本年は居室前の写真フレームを上手に利用して「避難済」のカードが瞬時に表示できるように管理者が新案しています。	一時職員の入れ替えもあったこともあり、誰が何を体験したことがあるかについては記録をとることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や生活歴を理解し、言葉かけや対応に十分注意している。また、何かして下さった際には必ずお礼を伝えるよう心掛けている。	被害妄想や不穏の症状には対処方法を心得、集団生活の雰囲気や壊れないように気遣う職員の姿を視認しました。何か目標めいたものがないと緩慢としてしまうとの危惧から「挨拶をしよう」など小さなゴールを用意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から本人の思いや希望を表現しやすいよう話を傾聴するよう努めている。また、認知症が進行した方には選択肢を出すなど、表現しやすい声かけや対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション等、ご入居者個々のレベルや嗜好に合わせて提供しており、一人ひとりのペースで取り組むことが出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回の理美容出張サービスでは、利用する方の好みを伝えられるよう支援している。また、本人・ご家族の希望で日常的にお化粧をして頂いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれ一人ひとりに合ったかたちで食事の準備や片付けに参加して頂いている。手作りご飯の機会を設け、調理や盛りつけ等も通して食事を楽しんでいる。	セントラルキッチンから届く調理品はカロリー計算・衛生面では安心ですが、一つひとつが密封され利用者が盛り付けに加われなくなったというマイナス面があり、レク食と冠した手作りの日も設けるほか外食も取り入れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士、月1回の給食会議で内容を検討し、バランスの良い食事を提供している。また、一人ひとりの体調や状態に合わせて、栄養補助食品を用意したり、食べやすい食事形態にする等している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアの声かけ・支援を行っている。月1回歯科衛生士に来館して頂き、口腔内のチェックやブラッシング指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄チェック表を記入し、排泄パターンやトイレサインの把握に努め、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。また、さりげない声かけや誘導を行い、自尊心の配慮に努めている。	「できるかぎりトイレで～」という方針のもと、昼夜ともほとんどの利用者が歩行のうせトイレで排泄できています。状態が悪化した場合は2人で介助したり、夜間はPTイレを利用することでにオムツに頼らないケアを実現しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から水分摂取量や排泄の確認を行い、レクリエーションや体操などできるだけ身体を動かすようにしている。また、牛乳や食物繊維を摂るなどの工夫をしてなるべく自然排便ができるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご入居者全員が週2～3日入浴できるよう支援している。幸館・葵館では夕方から就寝前に入浴を行っている。また、体調や気分に応じて入浴日を変更し、できる限り希望に添えるよう支援している。	清潔保持のためやすを週2日として、1日おきの入浴がおこなわれ「毎日入りたい」にもなんとか対応できる態勢にあります。看護職だった人がやや拒否気味だったことから「薬湯です」とアナウンスしてすんなり入っているようになっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時の状況に応じて就寝して頂いている。居室の室温・湿度・照明の調整等の環境を整え、2時間おきに見回り安心して休めるよう努めている。布団干しやシーツ洗濯を定期的に行い、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の住診時に薬剤師が付き添っており、入居者一人ひとりの配薬を行っている。職員は処方薬を把握し、誤って服用しないよう薬カードで確認している。また、用法・用量・副作用等の理解ができるよう、服薬ファイルを作っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせて役割をみつけ、活躍できる環境を整えている。また、感謝の気持ちを伝え、やりがいを感じて頂けるよう支援している。個人の趣味や習い事など、講師に來館してもらい楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご入居者の希望を聞き、ドライブや買い物などで掛ける機会を多く作るようにしている。雨天以外の日は毎日散歩を希望される方の付き添いも行っている。また、ご家族の協力を得ながら初詣へ出向いたり、地域のお祭りへ出掛けている。	一昨年バンを購入してから思い立ってのドライブ外出が増えており、喫茶店やショッピングセンターへの通いが続いています。「初詣、花見、もみじ狩り、浜松まつり(凧まつり)といった遠出を3ユニットで」という場合は法人内のデイサービスからバスを借り実現させています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が自己管理する事が難しく、使用する機会があまりないが、買い物や外出先での支払いは希望やレベルに応じて本人が支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状・暑中見舞いが出せるよう支援している。ご家族・ご入居者の希望に応じて電話をとりつぐ支援もしている。また、自分の居室に電話を設置する事も可能である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者の混乱を招くような物がないよう環境を整え、常に清掃して清潔に務めている。ご入居者が心地よく暮らせるよう、照明や温度を調整し、季節の花や飾り付けをしている。	時節のひな壇が和室に展示され、また3Dでのクラフトが得意な職員が中心になった手づくりの華やいだ壁飾りが目を惹きます。回廊式の造りのあちこちに椅子があり、玄関には牛乳パックをリユースした鉢植えが並んでいました。	総体では毎日の清掃がおこなわれていることが伝わりますが、換気扇や隙間に埃がみられるため清掃箇所の再確認を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご入居者同士が隣席できるよう、席の配置を工夫したり、ソファーをL字に配置して会話しやすいようにしている。廊下・玄関先・中庭にもベンチを設置し、思い思いに過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具や寝具等は、ご家族と相談しできるだけ自宅で使いたれた馴染みの物を使用している。また、アルバム写真や室内装飾品等を置いて頂く事で自宅に近い居住空間を作るように努めている。	大きめのタンスやテレビ、小さなテーブルや椅子のある居室は本人が直接案内くださり、また「こういうのもやってくれるだよ」と自慢された節分の鬼と恵方巻きのフェルト作品はユニット費(自由裁量で使える予算)を職員が活用したものでした。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者が少しでも自立した生活ができるように、トイレや居室入口には分かりやすいように表示をしている。また、職員が身近で気配り・目配り・声かけをして自立した生活が安全に送れるよう支援している。		